



1 1つ1つ手作業で不要な花を摘む様子。多いときは8000鉢することも。2 通常の黒の容器ではなく、小売り業者のニーズに応え色つきのポットも使用している。3 趣味はバス釣り。暇があれば野尻湖に行き、リフレッシュしている。4 「縞模様の evolve もすごくきれいで好きなんだよね」と嬉しそうに話す。5 evolve のラベル。進化をイメージするために、ピオラと羽を持つ天使でデザインした。



宮崎県花き共進会農林水産大臣賞受賞  
 おおむたなおのりさん  
**大牟田尚徳**  
 (花農家)



**1つも同じものではなくていい進化し続け美しく咲いて欲しい**

赤、黄、青や紫など鮮やかに咲き乱れるピオラの新品種「evolve」。昨年開発され、冬から春にかけて見頃を迎えるこの花が、市場を賑わせている。開発したのは若手花農家大牟田尚徳さん、38歳。新品種の開発に加え、小売店や消費者にインターネットで栽培状況を発信し現場に見える工夫もしている。これらの取り組みが認められ、2月13日、宮崎県花き共進会の経営部門で最高賞の農林水産大臣賞を受賞した。「私よりす

ごい人は県内にも多くいる。追いつけるようにもつと勉強をしていかないと」。

大牟田さんが就農したのは、21歳のとき。初めは、実家の手伝いをする程度だった。そのため、花には全く興味なかった。

しかし、仕事を通して出会った人たちに少しずつ影響され夢中になっていった。「いつの間にか花が好きになっていった。そして、この世界をもっと見たい。そう思うようになった」。

発の誘いがあった。安定して生産できない新しい品種への挑戦はリスクが大きい。初めは20人参加していたが、1年たつと5人、2年たつと1人になっていった。「利益は別にして、遊び心をもってやっていた。継続していくうちに、どうやったらうまく咲くかが分かかってきた」。そして、昨年完全オリジナルの品種の完成に行きついた。

き、家業を継いだ。自然と出荷や商談で全国の多くの人と話す機会が増えた。その中で、全国でも凄腕と呼ばれる人が、水やりや温度調整、草取りなど花ひとつひとつに合せて変えている姿やオリジナルの品種を作り挑戦し続けている姿を見た。「自分のやり方とギャップを感じた」と当時を振り返る。

そんなとき、県から品種開

「evolve」は「keep evolve (進化し続ける)」という言葉からとった。「1つも同じものではなくていい。自然のままに交配させて美しく進化し続けてほしい」という思いがこもっている。

**小林**  
 こばやしびと  
 Vol.49

「今回の賞をもらいもつといいものを作っていけないといけない。プレッシャーは大きいけど、だからこそより緻密に花と向き合えるんだよね」。美しく進化し続ける花のよう

に、大牟田さんの進化は止まることを知らない。